共立蒲原総合病院
第二次中期経営計画

平成30年度進捗状況報告

共立蒲原総合病院

令和元年６月

目　次

第二次計画の評価基準…… 1
評価の一覧…… 1

Ⅰ　経営の安定化に向けた取り組み…… 3
１．人材の確保…… 3
⑴　医師…… 3
ア　常勤医師…… 3
イ　非常勤医師…… 5
⑵　看護師…… 6
⑶　薬剤師…… 7
⑷　介護員…… 7
２．医療機器等及び病院施設の更新等…… 8
⑴　医療機器等関係…… 8
⑵　病院施設関係…… 8
３．諸経費の合理化…… 8
⑴　薬品費の削減と後発医薬品の導入…… 8
⑵　診療材料費等の削減…… 8
⑶　委託契約の見直し…… 8
４．コンサルタントの活用…… 9
５．職員の経営参画意識の高揚…… 9
６．広報機能の強化…… 9
７．その他の取り組み…… 9
⑴　地域連携の強化…… 9
⑵　患者満足度の向上…… 10
⑶　医療安全への取り組み…… 10
⑷　未収金対策…… 10

Ⅱ　入院…… 11
１．急性期病床（ＤＰＣ病床）…… 13
２．地域包括ケア病床…… 15
３．療養病床…… 17

Ⅲ　外来…… 19
１．患者数・外来単価…… 19
２．救急医療…… 21

Ⅳ　健康診断センター…… 22
１．公衆衛生活動収益（集団健診）…… 22
⑴　市民健診…… 22
⑵　企業健診（生活習慣病健診）…… 22
⑶　企業健診（一般健診・二次健診等）他…… 22
２．医療相談収益（人間ドック）…… 23
⑴　１泊ドック…… 23
⑵　日帰りドック他…… 23
３．収支…… 24

Ⅴ　訪問看護ステーション…… 25
１．訪問看護…… 25
２．訪問リハビリ…… 27
３．収支…… 28

Ⅵ　収支…… 29
１．収益的収支…… 29
⑴　収益的収入…… 29
⑵　収益的支出…… 29
⑶　収益的収支（病院事業収支）…… 30
２．資本的収支…… 31
⑴　資本的収入…… 31
⑵　資本的支出…… 31
⑶　資本的収支…… 31

Ⅶ　数値目標…… 32
１．医療機能等指標の目標…… 32
２．経営指標の目標…… 32

第二次計画の評価基準

平成28年３月に平成28年度から令和２年度までの「共立蒲原総合病院第二次中期経営計画」を策定しました。しかしながら、平成28年度中に当院を取り巻く環境に大きな変化があり、目標値等の見直しの必要性が生じたため、「共立蒲原総合病院第二次中期経営計画 平成29年３月改定版」（以下「第二次計画」という。）を策定しました。

本報告は、第二次計画に掲げられた平成30年度の取り組み結果や目標値に対する決算値を報告し、あわせて達成度について評価を行うもので、その評価基準は、「５：十分達成」、「４：ほぼ達成」、「３：中程度」、「２：やや不十分」及び「１：不十分」から選択することとします。

なお、上位の項目の評価は、下位の評価を参考にその目的に照らして評価しました。

評価の一覧

	評価	H29年度との比較
Ⅰ　経営の安定化に向けた取り組み	３：中程度	
１．人材の確保	３：中程度	
⑴　医師	３：中程度	
ア　常勤医師	４：ほぼ達成	
(ア)採用・退職	４：ほぼ達成	
(イ)医学生修学資金	５：十分達成	
(ウ)大学訪問	２：やや不十分	
(エ)医師紹介会社	４：ほぼ達成	
(オ)医師勤務負担の軽減	３：中程度	↑
イ　非常勤医師	３：中程度	
(ア)採用・退職	３：中程度	↓
(イ)医師紹介会社	４：ほぼ達成	↑
⑵　看護師	３：中程度	↓
ア　採用・退職	２：やや不十分	新設
イ　看護学生修学資金	４：ほぼ達成	
ウ　院内保育所の利用	４：ほぼ達成	
エ　処遇の改善	３：中程度	↓
⑶　薬剤師	３：中程度	
ア　採用・退職	４：ほぼ達成	↓
イ　薬学生修学資金	４：ほぼ達成	↑↑
ウ　薬学部へのアプローチ	２：やや不十分	
⑷　介護員	２：やや不十分	
２．医療機器及び病院施設の更新等	４：ほぼ達成	
⑴　医療機器関係	４：ほぼ達成	
⑵　病院施設関係	４：ほぼ達成	
３．諸経費の合理化	３：中程度	
⑴　薬品費の削減と後発医薬品の導入	３：中程度	
⑵　診療材料費等の削減	３：中程度	
⑶　委託契約の見直し	３：中程度	
４．コンサルタントの活用	４：ほぼ達成	↑
５．職員の経営参画意識の高揚	３：中程度	
６．広報機能の強化	４：ほぼ達成	
７．その他の取り組み	３：中程度	
⑴　地域連携の強化	３：中程度	
⑵　患者満足度の向上	４：ほぼ達成	↑
⑶　医療安全への取り組み	３：中程度	

		⑷　未収金対策	４：ほぼ達成	↑
Ⅱ　入院			３：中程度	↑
	１．急性期病床（ＤＰＣ病床）		２：やや不十分	↑
	２．地域包括ケア病床		２：やや不十分	↑
	３．療養病床		４：ほぼ達成	↓
Ⅲ　外来			３：中程度	↑
	１．患者数・外来単価		３：中程度	↑↑
	２．救急医療		３：中程度	
Ⅳ　健康診断センター			３：中程度	↑
	１．公衆衛生活動収益（集団健診）		３：中程度	↑
		⑴　市民健診	３：中程度	
		⑵　企業健診（生活習慣病健診）	３：中程度	
		⑶　企業健診（一般健診・二次検査等）他	３：中程度	↑
	２．医療相談収益（人間ドック）		３：中程度	
		⑴　１泊ドック	３：中程度	
		⑵　日帰りドック他	４：ほぼ達成	↑
	３．収支		３：中程度	↑
Ⅴ　訪問看護ステーション			３：中程度	
	１．訪問看護		３：中程度	↑
	２．訪問リハビリ		３：中程度	↓
	３．収支		２：やや不十分	
Ⅵ　収支			１：不十分	
	１．収益的収支		１：不十分	
		⑴　収益的収入	１：不十分	
		⑵　収益的支出	２：やや不十分	
		⑶　収益的収支（病院事業収支）	１：不十分	

次頁からそれぞれの項目の詳細を記載します。

Ⅰ　経営の安定化に向けた取り組み　評価【３：中程度】

１．人材の確保　評価【３：中程度】

⑴　医師　評価【３：中程度】

ア　常勤医師　評価【４：ほぼ達成】

常勤医師数及び平均年齢の推移　（単位：人）

			H30/4/1 現在	採用 (H30/4/2～H31/4/1)	退職 (H30/4/1～H31/3/31)	H31/4/1 現在
合計			18	4	1	21
	内科		8	1	1	8
		一般	3			3
		消化器	3			3
		循環器	1		1	0
		糖尿病・内分泌	1	1		2
	小児科		1			1
	外科		3			3
	整形外科		2	1		3
	脳神経外科		1	1		2
	皮膚科		1			1
	泌尿器科		1			1
	婦人科		1			1
	健康診断センター		0	1		1
平均年齢　（歳）			52.7	－	－	51.8

※　産休者及び育休者を含みます。

（ア）採用・退職　評価【４：ほぼ達成】

【採用】４人

平成30年10月１日　健康診断センター　１人（紹介会社）
平成31年１月１日　内科（糖尿病・内分泌）　１人（公募）
〃　整形外科　１人（紹介会社）
平成31年４月１日　脳神経外科　１人（公募）

【退職】１人

平成30年11月30日　内科（循環器）　１人

（イ）医学生修学資金（平成28年度創設）　評価【５：十分達成】

医学生修学資金貸与制度を周知するため、同制度の案内を当院のウェブサイトに掲載し、４月及び９月に全国の大学医学部へ送付しました。

申込者　１人
面接実施者　１人
貸与決定者　１人（１年生１人）

貸与者数（H31/3/31現在）　（単位：人）

	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	計
貸与者	1	0	1	1	0	1	4

（ウ）大学訪問　評価【２：やや不十分】

院長及び事務長による大学３箇所、６医局の訪問を実施しましたが、訪問した医局の状況が厳しく、医師招聘につながりませんでした。

令和元年度は、医師の派遣及び医師招聘へつながるよう大学医局や医師派遣元病院を前年度と同様に継続して訪問します。

（エ）医師紹介会社　　評価【４：ほぼ達成】

登録している医師紹介会社数　20社

紹介の状況　（単位：人）

	紹介	面談	採用
常勤医師	30	3	2

令和元年度は、前年度同様に医師紹介会社への登録を地道に行い、面談人数の増に努めます。

（オ）医師勤務負担の軽減　　評価【３：中程度】

ⅰ　医師事務作業補助者の活用

医師事務作業補助者について、５名配置し、医師の指示の下に診断書や介護保険主治医意見書等の文書作成補助、診療記録への代行入力等や遠隔画像診断のための画像送受信業務を実施しました。

令和元年度は、医師事務作業補助体制加算の施設基準内で医師事務作業補助者による医師勤務負担軽減業務の拡大を目指します。

ⅱ　非常勤医師による日当直

非常勤医師による日当直業務については、１年間を通じ継続的に実施しました。

イ　非常勤医師　　評価【３：中程度】

非常勤医師数の推移　　（単位：人）

			H30/4/1現在		H31/4/1現在		増減	
			人数	常勤換算	人数	常勤換算	人数	常勤換算
合計			46	6.58	46	6.74		0.16
	内科		10	1.86	10	1.97		0.11
		呼吸器	2	0.20	2	0.20		
		消化器	4	0.61	4	0.61		
		循環器	3	0.95	3	0.95		
		糖尿病・内分泌	1	0.10	1	0.21		0.11
	神経内科		2	0.30	2	0.30		
	総合診療科		－	－	1	0.15	1	0.15
	小児科		1	0.05	－	－	▲1	▲0.05
	外科		4	0.39	4	0.39		
	脳神経外科		3	0.51	3	0.28		▲0.23
	皮膚科		－	－	1	0.31	1	0.31
	婦人科		2	0.31	1	0.10	▲1	▲0.21
	眼科		5	0.63	5	0.63		
	耳鼻いんこう科		3	0.60	3	0.60		
	放射線科		2	0.11	1	0.03	▲1	▲0.08
	麻酔科		4	0.66	4	0.66		
	心療内科		1	0.05	2	0.10	1	0.05
	検査科		1	0.20	2	0.30	1	0.10
	透析		6	0.81	5	0.82	▲1	0.01
	リウマチ		2	0.10	2	0.10		

※　日当直医及び健康診断担当医は除きます。

（ア）採用・退職　　評価【３：中程度】

採用・退職の状況　　（単位：人）

採用ルート	診療科	採用	退職
大学医局派遣	内科（消化器）	1	1
	神経内科	1	1
	総合診療科	1	
	小児科		1
	脳神経外科	1	1
	皮膚科	1	
	眼科	1	1
	耳鼻いんこう科	2	2
	放射線科		1
	透析		1
紹介会社	内科（糖尿病・内分泌）	1	
その他	内科（糖尿病・内分泌）		1
	婦人科		1
	心療内科	1	
	検査科	1	
合　計		11	11

（イ）医師紹介会社　　評価【４ほぼ達成】

紹介の状況　　（単位：人）

	紹介	面談	採用
非常勤医師	7	1	1

⑵　看護師　　評価【３：中程度】

看護師数の推移　　（単位：人）

	H30/4/1現在	採用 (H30/4/2～H31/4/1)	退職 (H30/4/1～H31/3/31)	H31/4/1現在
正規職員	166	9	10	165
臨時職員	23	6	9	20
パート職員	19	4	2	21
計	208	19	21	206

※１　産休者及び育休者を含みます。
※２　身分切替者（臨時職員を正規職員として採用等）は、退職と採用でそれぞれ計上しました。

ア　採用・退職　　評価【２：やや不十分】

看護学生修学資金の貸与等により採用はできたものの、退職者数が採用者数を上回り、看護師数は減となってしまいました。

イ　看護学生修学資金　　評価【４：ほぼ達成】

貸与者数（H31/3/31現在）　　（単位：人）

	１年生	２年生	３年生	４年生	計
大　　学	0	0	1	1	2
専門学校	0	1	1		2
計	0	1	2	1	4

修学資金貸与者のうち、２人を平成31年４月１日付で採用しました。

ウ　院内保育所の利用　　評価【４：ほぼ達成】

平成30年度月平均保育児童数　13.2人

エ　処遇の改善　　評価【３：中程度】

平成30年度は、具体的な処遇改善策の実行にはいたりませんでしたが、引き続き採用者の増加及び在職者の離職防止につながる処遇改善策を検討していきます。

⑶　薬剤師　　評価【３：中程度】

薬剤師数の推移　　（単位：人）

	H30/4/1現在	採用 (H30/4/2～H31/4/1)	退職 (H30/4/1～H31/3/31)	H31/4/1現在
正規職員	10	1	0	11

ア　採用・退職　　評価【４：ほぼ達成】

平成30年10月に１人採用し11人となりましたが、平成31年４月の目標値12人は達成できませんでした。

イ　薬学生修学資金（平成28年度創設）　　評価【４：ほぼ達成】

薬学生修学資金貸与制度を周知するため、同制度の案内を当院のウェブサイトに掲載し、74大学薬学部へ案内を送付しました。その結果、５年生１名の申込みがあり、１名に貸与しました。

貸与者数（H31/3/31現在）　　（単位：人）

	５年生	６年生	計
貸与者	1	0	1

令和元年度は、前年度と同様に制度の案内を当院のウェブサイトへ掲載し、74大学薬学部への案内送付を継続実施することにより、制度のさらなる周知に努めます。

ウ　薬学部へのアプローチ　　評価【２：やや不十分】

静岡県立大学薬学部の就職説明会に参加し、学生に対し当院の説明を行いました。

令和元年度は、当院薬剤師の出身大学薬学部及び静岡県出身者が在籍する大学薬学部の就職説明会等へ継続的に参加し、就職先として選ばれるよう当院をアピールしていきます。

⑷　介護員　　評価【２：やや不十分】

介護員数の推移　　（単位：人）

	H30/4/1現在	採用 (H30/4/2～H31/4/1)	退職 (H30/4/1～H31/3/31)	H31/4/1現在
介護員	22	1	3	20

前年度に引き続き健康フェスタ会場での説明・勧誘なども行いましたが、退職者補充ができませんでした。

一方、パート介護員（夜間勤務なし）の時間給を上げ、離職防止に努めました。

２．医療機器等及び病院施設の更新等　　評価【４：ほぼ達成】

⑴　医療機器等関係　　評価【４：ほぼ達成】

平成30年度は、一般医療機器の見積提出依頼業者を５社から１社増やし６社としました。第二次計画で予定された大型器機の更新はありませんでしたが、その他医療機器として、Ｘ線一般撮影装置及び透析監視装置等を更新しました。また、車輌として胃・胸部健診レントゲン車を１台更新するとともに、さらに１台次年度更新の準備に入りました。

令和元年度も各部署から提出された購入・更新要望機器の必要度及び優先度等を検討し、前年度同様に新たな業者開拓を図るとともに、メーカー間の競争原理をはたらかせるよう考えていきます。

⑵　病院施設関係　　評価【４：ほぼ達成】

平成30年度は、病院施設関係の維持管理に務めるとともに、第二次計画で予定された本館非常用発電機（平成31年３月）及び液体酸素タンク更新（平成31年３月）を実施し、非常時等に備えることができました。

令和元年度は、新館冷温水発生機更新と手術室空調機更新工事について、日程調整等を慎重に検討し、出来る限り診療に影響がないように実施します。また、令和２年度には本館空調の老朽化に伴う空調設備更新及び病棟改修工事を計画しています。これにより令和元年度中に現在病棟として使用していない新館２階を稼働できるよう病室、ナースコール及び照明器具等の改修工事を実施します。

３．諸経費の合理化　　評価【３：中程度】

⑴　薬品費の削減と後発医薬品の導入　　評価【３：中程度】

薬品購入にあたっては、購入予定の薬品について複数の医薬品卸業者へ見積提出を依頼し、薬品毎に最安値を提示した業者と契約しました。自治体病院共済会が実施する医薬品値引き率調査の平均値引き率等を参考としました。

後発医薬品の導入により、注射薬については購入金額の5.41％を削減することができ、内服薬については使用数量の90.85％を後発医薬品に切り替えることができました。

令和元年度は、薬品購入について、業者間の競争原理をはたらかせ、さらなる値引き交渉に努めます。

また、後発医薬品の導入により、注射薬については導入前の購入金額（先発品購入の想定金額）から５％削減を目指します。

⑵　診療材料費等の削減　　評価【３：中程度】

平成30年度は、大幅な費用削減につながる診療材料の変更はできませんでした。

令和元年度は、他社同等品と競合する機会を設け、ベンチマークデータを利用して交渉を進めるよう努めます。また、不良在庫削減については、引き続き期限切れ間近の材料を各部署へ報告し、院内において出来る限り消費するように努め、定数見直しについても常時実施していきます。

⑶　委託契約の見直し　　評価【３：中程度】

平成30年度の廃棄物処理業務委託について、近隣病院で実績のある指名業者を１社新たに追加したことにより契約額の低減につながりました。粗大ゴミについては、落札率72.5％で契約を締結しました。

令和元年度の空調設備保守業務委託について、病院建設以来同一業者にて実施してきましたが、新たに２社を加え６社にて見積り合わせを実施します。

４．コンサルタントの活用　　評価【４：ほぼ達成】

平成30年６月、９月及び平成31年３月の合計３回、ＤＰＣ委員会や院内セミナー（２回）において診療報酬に関する助言及び提言を受けました。

令和元年度は、早期に令和２年診療報酬改定に関する情報を得て収益増につながる対応をしていきます。併せて、診療報酬改定セミナーを開催し、院内への周知を図ります。

５．職員の経営参画意識の高揚　　評価【３：中程度】

平成30年度は、外部講師を招き７月に「診療データを用いた改善活動勉強会」を演題とした院内勉強会を開催しました。また、当院コンサルタントによる診療報酬改定に関するセミナーを２回開催するとともに、参加できなかった職員に対し同セミナーを動画配信しました。

令和元年度は、診療報酬改定に可能な限り早急に対応できるよう、その情報及び内容を職員に対し速やかに提供します。併せて平成30年度同様に院内勉強会やオンラインセミナーを開催し、その講演内容を動画配信することにより多くの職員が勉強会に参加できるように努めます。

６．広報機能の強化　　評価【４：ほぼ達成】

⑴　院外広報誌の発行

平成30年度は、新任医師紹介、市民公開講座の案内及び院内部署紹介等を記事にした院外広報誌「蒲原病院だより」を２回（春号・秋号）発行し、富士川地区、蒲原地区及び由比地区には全戸配布し、これ以外の構成市区域には全戸回覧しました。

令和元年度は、当院の情報を迅速に地域住民へお知らせするため、院外広報誌「蒲原病院だより」の発行回数を増やし年４回とします。

⑵　市民公開講座等の開催

市民公開講座は、新たに常勤医として着任した泌尿器科医師による『夜間頻尿について～おしっこでお困りの方へ～』を８月２日に開催し42人の参加が、同じく常勤医として着任した婦人科医師による『婦人科検診について～婦人科癌は集団検診だけでいいのか!?～』を11月29日に開催し30人の参加がありました。

また、10月27日（土）、富士川まちづくりセンターにおいて「平成30年度蒲原病院健康フェスタ」を開催し、130人の参加がありました。同フェスタにおいて、肝炎コーナーを設置し、「Ｃ型肝炎について」を紹介し、肝炎検査の受診勧奨のチラシを来場者へ配布しました。

令和元年度は、医師以外の職種も講師とする市民公開講座を開催します。また、「蒲原病院健康フェスタ」を由比地区にて開催します。

７．その他の取り組み　　評価【３：中程度】

⑴　地域連携の強化　　評価【３：中程度】

地域連携の強化として下記の取り組みを実施しました。

ア　事前登録制度※等の活用

平成31年３月31日現在、事前登録制度へ96件の登録があり、平成30年度は39人の患者さんを受け入れました。また、富士市立中央病院から地域連携パス患者さんを10人（整形外科５人、脳神経外科５人）受け入れ、前年度比３人増となりました。

令和元年度は、引き続き事前登録制度の登録件数の増と富士市立中央病院からの患者さん受け入れの増に努めます。

※「事前登録制度」とは
富士市医師会の開業医をかかりつけ医とする患者さんが急性増悪して入院が必要となった場合やレスパイト入院（在宅医療を支えるための入院）の要望があった場合、当院の地域包括ケア病床で円滑に受け入れ（入院）ができるように事前に患者さんの登録を行うことで、平成28年度から開始しました。

イ　地域ケア会議への出席

高齢者支援機関、行政機関及び地域住民との連携を図り、地域に密着したネットワークを構築するために、地域ケア会議等へ２回出席しました。

ウ　「地域医療支援室だより」の発行

紹介患者さんの増加を図るためにはまず当院の医療情報を周知しなければならないことから、「地域医療支援室だより」を４回発行し、富士市、静岡市及び富士宮市の医療機関（102施設）へ配付しました。

エ　「ふじのくにねっと」※への開示依頼

平成28年度から「ふじのくにねっと」へ参加し、平成30年度は69件の開示を依頼しました。

※「ふじのくにねっと」とは
正式名称は「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」と言います。病院や診療所などで患者さんの診療情報を共有することにより、地域全体が大きな病院となって病気を治していこうというネットワークで、平成23年４月から稼働しました。
セキュリティを確保した上で、医療連携の強化、高度で無駄のない医療の実現を目指しています。
このネットに参加すると、参加している施設の間で患者さんの医療情報（検査結果やＸ線写真、処方の内容等）が共有可能となります。

⑵　患者満足度の向上　　評価【４：ほぼ達成】

６月11日から６月24日までの期間に、外来患者さん及び入院患者さんを対象に、患者満足度調査を実施しました。「満足」の割合が61.2％で前年度（59.0％）よりも上昇しました。あわせて、自由意見から、トイレ内の乾燥ファン（温風機）を廃止してペーパータオルを設置するとともに温水洗浄便座に改修しました。

接遇については、全職員を対象に接遇研修を実施し、職員の接遇の向上を図りました。

⑶　医療安全への取り組み　　評価【３：中程度】

毎月定期的に、リスク対策委員会、リスクマネジャー部会、医療安全管理委員会及び看護部リスクマネジメント委員会を開催しました。

医療安全管理委員会は、12回開催し計46例のインシデント・アクシデント事例に対する対策を実施しました。

医療安全研修について、前期は「個人情報保護法の理論と実務」をテーマに318人が参加、後期は「リスクマネジャー活動報告会」をテーマに324人が参加しました。研修出席率を上げるため、研修会を動画撮影し、参加できなかった職員が視聴できるようにしました。

⑷　未収金対策　　評価【４：ほぼ達成】

発生防止対策として、入院申込書の確認、メディカルソーシャルワーカーの早期介入、限度額確認証の提出依頼及び退院時の支払い誓約書の作成等を継続して実施しました。

また、発生後の対策として、担当者による早期の電話や文書による連絡、自宅訪問等を実施し、再度支払い誓約書へのサインをお願いするなどの対応を図った結果、過年度未収金のうち、入院は91.66％を、外来は92.79％を回収することができました。

Ⅱ　入院

評価【３：中程度】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
稼働病床数　(床)	235	235	－	235	－
１日患者数　(人)	223.0	205.3	▲ 17.7	200.2	5.1
病床利用率　(%)	94.9	87.4	▲ 7.5	85.2	2.2
入院診療日数　(日)	365	365	－	365	－
年間患者数　(人)	81,395	74,929	▲ 6,466	73,082	1,847
入院単価　(円)	31,812	32,303	491	30,775	1,528
年間収益　(千円)	2,589,310	2,420,408	▲ 168,902	2,249,111	171,297

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

平成30年度は、前年度と同様にケアミックス病院の特性を活かし、シームレスな医療を提供するため入院診療において様々な取り組みを実施しました。

①　医師の採用（P3「１．人材の確保」「⑴　医師」参照）

②　「蒲原病院だより」の発行（P9「６．広報機能の強化」「⑴　院外広報誌の発行」参照）

③　市民公開講座等の開催（P9「６．広報機能の強化」「⑵　市民公開講座等の開催」参照）

④　事前登録制度等の活用（P9「７．その他の取り組み」「⑴　地域連携の強化」「ア」参照）

⑤　地域ケア会議への出席（P9「７．その他の取り組み」「⑴　地域連携の強化」「イ」参照）

⑥　「地域医療支援室だより」の発行（P9「７．その他の取り組み」「⑴　地域連携の強化」「ウ」参照）

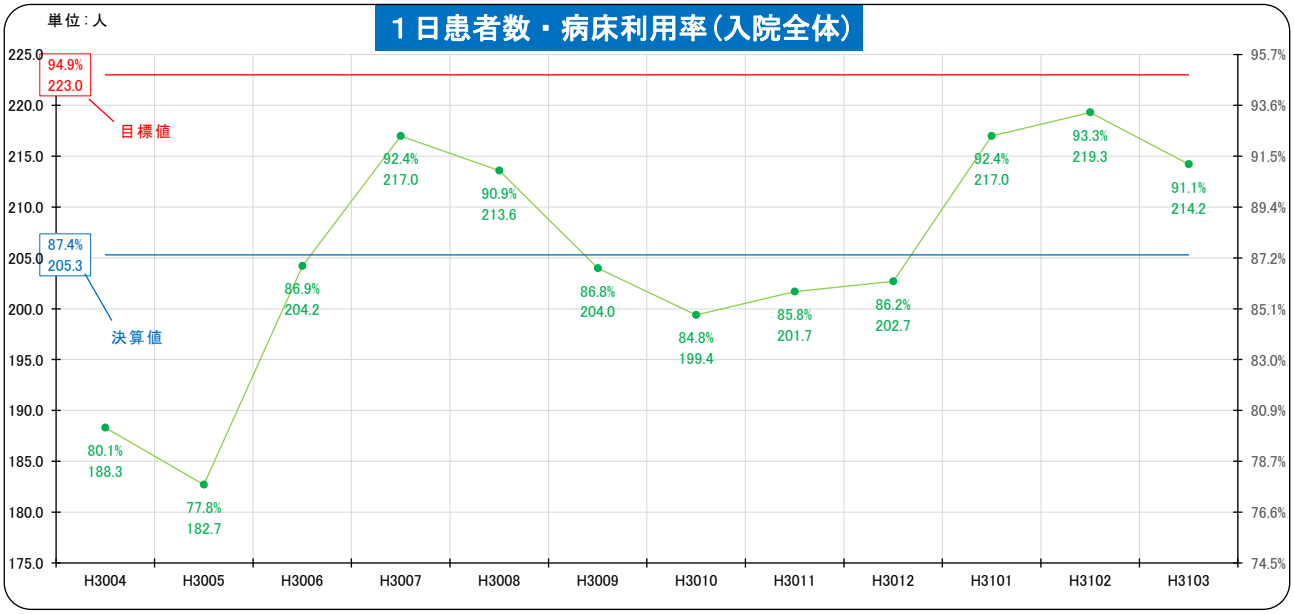
⑦　ベッドコントロール会議の開催

効率的な病床稼働のためにベッドコントロール会議を毎日（土日祝日を除く。）開催しました。

これらの取り組みの結果、急性期病床（ＤＰＣ病床）では「７対１入院基本料」の維持、地域包括ケア病床では事前登録制度の患者さんの受け入れ及び療養病床では「在宅復帰機能強化加算」の継続取得等ができました。

入院単価は目標値を上回りましたが、入院患者数は目標値に届かず、「年間収益」の決算値は2,420,408千円（前年度比171,297千円増）となり、目標値の2,589,310千円を168,902千円下回りました。

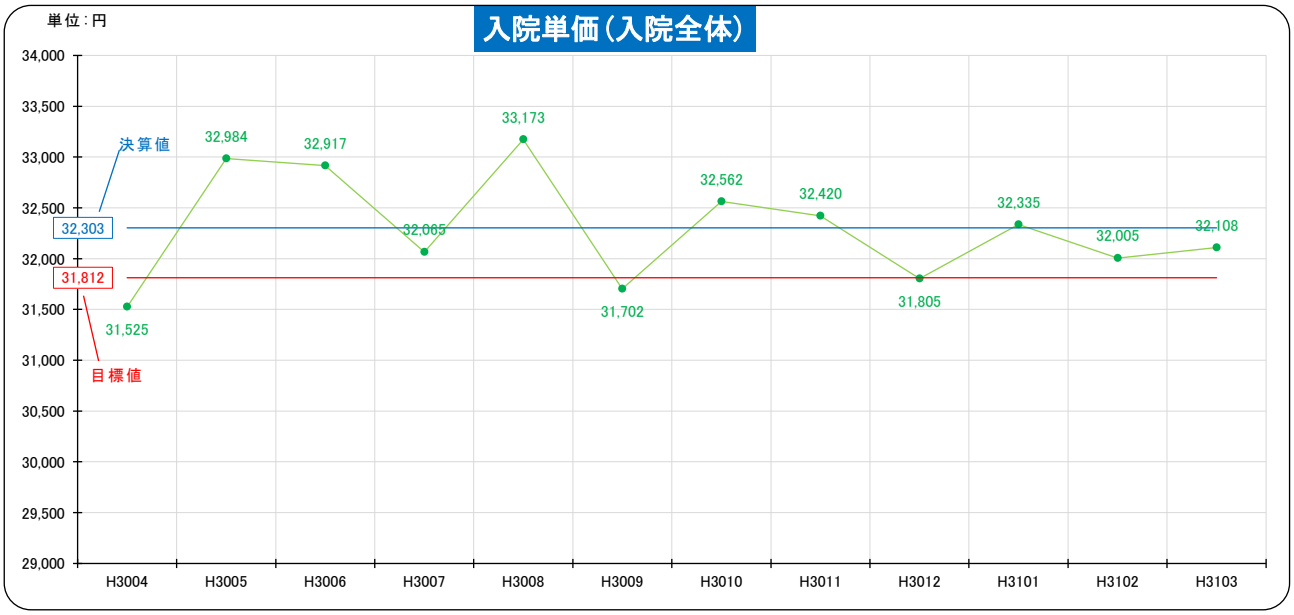
「１日患者数・病床利用率」及び「入院単価」の推移は以下のとおりです。



※　上段の数値は病床利用率です。

「１日患者数（病床利用率）」について、目標値に迫る月もありましたが、決算値は「205.3人（前年度比5.1人増）（87.4%）（前年度比2.2%増）」となり、目標値の「223.0人（94.9%）」を17.7人（7.5%）

下回りました。



「入院単価」について、４月、９月及び12月は目標値を下回りましたが、決算値は32,303円（前年度比1,528円増）となり、目標値の31,812円を491円上回りました。

「急性期病床（ＤＰＣ病床）」、「地域包括ケア病床」及び「療養病床」の進捗状況は、次頁以降に記載します。

１．急性期病床（ＤＰＣ病床）　　評価【２：やや不十分】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
稼働病床数 (床)	78	78	－	78	－
１日患者数 (人)	74.0	62.8	▲11.2	59.5	3.3
病床利用率 (%)	94.9	80.5	▲14.4	76.3	4.2
入院診療日数 (日)	365	365	－	365	－
年間患者数 (人)	27,010	22,919	▲4,091	21,723	1,196
入院単価 (円)	47,000	47,023	23	46,423	600
年間収益 (千円)	1,269,470	1,077,728	▲191,742	1,008,441	69,287

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

急性期病床（ＤＰＣ病床）については、２病棟78床の稼働としました。

平成30年度は、診療報酬改定があり急性期病床（ＤＰＣ病床）に関連するものは下記のものがありました。

平成30年度診療報酬改定【急性期病床（ＤＰＣ病床）関連】

① 「７対１入院基本料」及び「10対１入院基本料」が「急性期一般入院基本料」に再編
→「急性期一般入院基本料」が７つに分類され、最上位の「急性期一般入院料１」のみ７対１看護配置を要し、それ以外は10対１看護配置となりました。

② 一般病棟用「重症度、医療・看護必要度」の評価基準の見直し
→処置等を受ける認知症やせん妄状態の患者さんに対する医療が適切に評価（重症患者にカウント）されました。

③ 暫定調整係数廃止及び同係数の基礎係数及び機能評価係数Ⅱへの置換え

当院は、ベッドコントロール会議開催等により効率的な病床稼働に努め、年間を通して「急性期一般入院料１」を維持することができました。

平成30年度診療報酬改定により新設された「医療安全対策地域連携加算２」を算定しました。ＤＰＣ病床における後発医薬品係数が廃止され「後発医薬品使用体制加算」の算定が可能となりました。当院は以前から後発医薬品の導入を促進していたため、最上位である「後発医薬品使用体制加算１」を算定することができました。

また､地域連携強化の観点から地域ケア会議へ出席し､｢地域医療支援室だより｣を発行しました。

以上の施策により、「入院単価」は目標値を上回りましたが、「１日患者数」が目標値を下回り、「年間収益」の決算値は1,077,728千円（前年度比69,287千円増）となり、目標値1,269,470千円を191,742千円下回りました。

令和元年度の「年間収益」目標値を達成するため､「年間患者数」及び「入院単価」について、下記の取り組みを実施します。

まず､「年間患者数」について、平成30年度の取り組みを継続します。具体的には、医療機関に向けて各科外来の予定や予約方法等を記載した｢外来診療に関するお知らせ｣及び｢外来診療担当表｣を毎月送付し､｢地域医療支援室だより｣を年４回以上発行することにより、当院の医療情報を周知します。

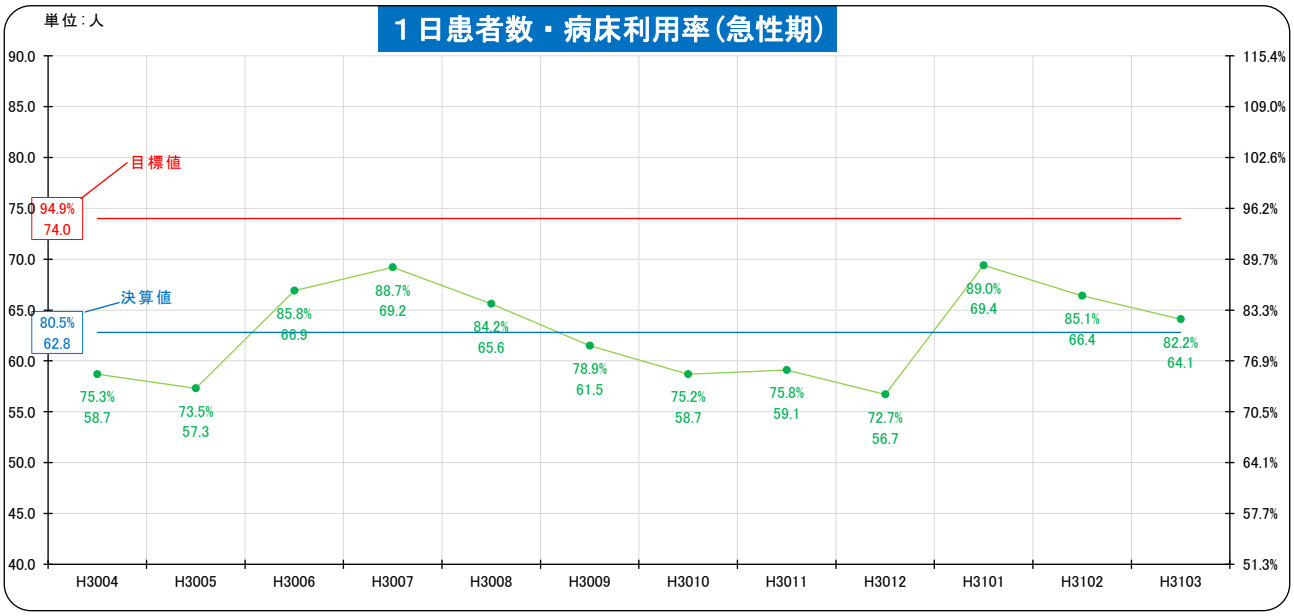
また、地域ケア会議へ地域医療支援室の担当者が出席することにより、高齢者支援機関及び行政機関の担当者との連携を深め、地域住民を含めた地域に密着したネットワークの構築を目指すとともに、救急患者の積極的な受け入れを継続します。

「入院単価」について､当院は引き続き｢急性期一般入院料１｣(旧７対１入院基本料)を維持し、「後発医薬品使用体制加算１」を継続算定していきます。

薬剤師の増員により、患者サービス向上へつながるチーム医療推進の一環である「病棟薬剤業務実施加算」の再取得及び「薬剤管理指導」件数の増加に努めます。

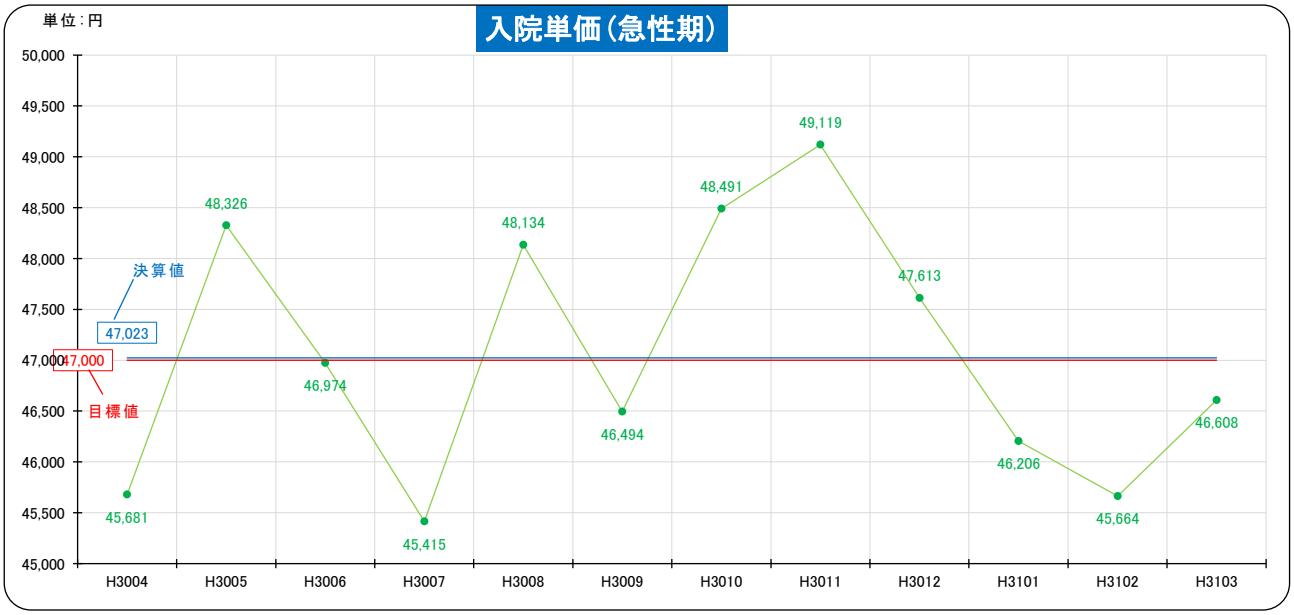
また、引き続き急性期を脱した患者さんの地域包括ケア病床への早期転棟に向け、ベッドコントロール会議等により効率的な病床稼働を行い、リハビリテーション提供件数の増及び「認知症ケア加算１」の継続取得に努めます。

「１日患者数・病床利用率」及び「入院単価」の推移は以下のとおりです。



※　上段の数値は病床利用率です。

「１日患者数（病床利用率）」について、目標値に迫る月もありましたが超える月はなく、この結果、決算値は「62.8人（前年度比3.3人増）（80.5%）（前年度比4.2%増）」となり、目標値「74.0人（94.9%）」を11.2人（14.4%）下回りました。



「入院単価」について、年間を通して「７対１入院基本料」の維持、ケアミックス病院の特長を活かすため急性期を脱した患者さんを早期に地域包括ケア病床へ転棟させる等の効率的な病床稼働、また、「医療安全対策地域連携加算２」や「後発医薬品使用体制加算１」の算定、医療の質向上につながる薬剤管理指導の実施やリハビリテーション提供件数の増加に努めました。また、常勤医師が増員となった整形外科や泌尿器科で手術件数が増加しました。

この結果、決算値は47,023円（前年度比600円増）となり、目標値の47,000円を23円上回りました。

２．地域包括ケア病床

評価【２：やや不十分】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
稼働病床数 (床)	65	65	－	65	－
１日患者数 (人)	59.0	53.3	▲5.7	50.6	2.7
病床利用率 (%)	90.8	82.0	▲8.8	77.8	4.2
入院診療日数 (日)	365	365	－	365	－
年間患者数 (人)	21,535	19,444	▲2,091	18,461	983
入院単価 (円)	32,000	33,827	1,827	32,464	1,363
年間収益 (千円)	689,120	657,729	▲31,391	599,319	58,410

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

地域包括ケア病床については、２病棟65床の稼働としました。

平成30年度は、診療報酬改定があり地域包括ケア病床に関連するものは下記のものがありました。

平成30年度診療報酬改定【地域包括ケア病床関連】

①　「地域包括ケア病棟入院基本料」を４つに再編
　→改定前に当院が取得していた「地域包括ケア病棟入院料１」が、改定後は「地域包括ケア病棟入院料２」となり、上位の「地域包括ケア病棟入院料１」が追加されました。ただし、「地域包括ケア病棟入院料１」は許可病床数200床未満の医療機関しか認められないため、当院（許可病床267床）は取得不可となります。

②　在宅復帰率の見直し
　→「在宅への退院」としてカウントできる施設から介護老人保健施設が削除されました。また、同時に復帰率が６割から７割に引き上げられました。

③　一般病棟からの患者受け入れと在宅からの受け入れの評価
　→転院（他院から当院の地域包括ケア病床）や転棟（当院の急性期病床（ＤＰＣ病床）から当院の地域包括ケア病床）での入院よりも、自宅等から直接当院の地域包括ケア病床への入院が評価（加算増）されました。

④　地域包括ケア病床における夜間看護配置の評価
　→認知症等の患者さんが一定割合以上入院する病棟において、夜間の看護職員の配置に係る評価（看護職員夜間配置加算）が新設されました。

急性期病床（ＤＰＣ病床）と同様に、ベッドコントロール会議開催等により効率的な病床稼働に努め、急性期病床（ＤＰＣ病床）からの転棟患者さんのほか、事前登録制度により登録された患者さん39人を受け入れました。また、富士市立中央病院から地域連携パスによる患者さん10人（整形外科５人、脳神経外科５人）を受け入れ、前年度比３人増となりました。

平成30年度改定により新設された「看護職員夜間配置加算（西２病棟のみ）」や地域包括ケア病床へ直接患者さんが入院することを評価した「在宅患者支援病床初期加算」を算定しました。

以上の施策により、「入院単価」は目標値を上回りましたが、「１日患者数」が目標値を下回り、「年間収益」の決算値は657,729千円（前年度比58,410千円増）となり、目標値689,120千円を31,391千円下回りました。

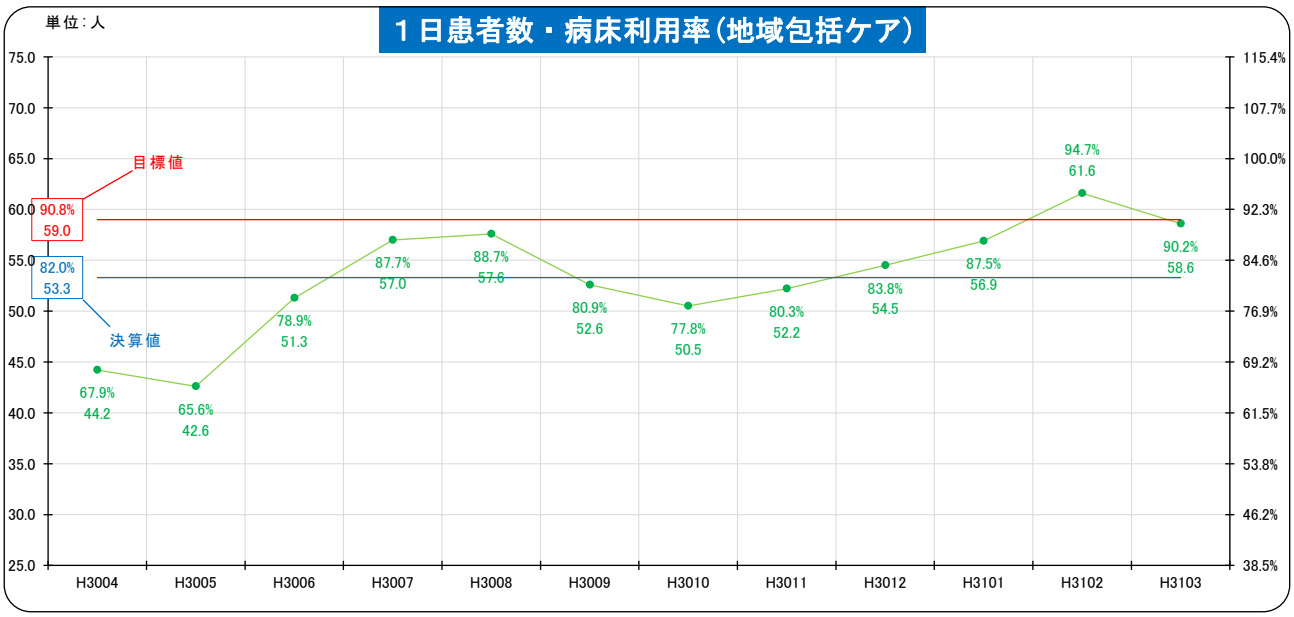
令和元年度の「年間収益」目標値を達成するため、「年間患者数」及び「入院単価」について、下記の取り組みを実施します。

まず、「年間患者数」について、平成30年度の取り組みを継続します。具体的には、「事前登録制度」登録件数の増を図り、患者さんの急性増悪時の入院（バックベッドとしての役割）やレスパイト入院（在宅医療を支えるための入院）を積極的に受け入れていきます。また、急性期病床（ＤＰＣ病床）と同様に、「外来診療に関するお知らせ」及び「外来診療担当表」を毎月送付し、「地域医療支援室だより」を年４回以上発行することにより、当院の医療情報を地域の医療機関へ周知しま

す。また、地域に密着したネットワークの構築を目指します。

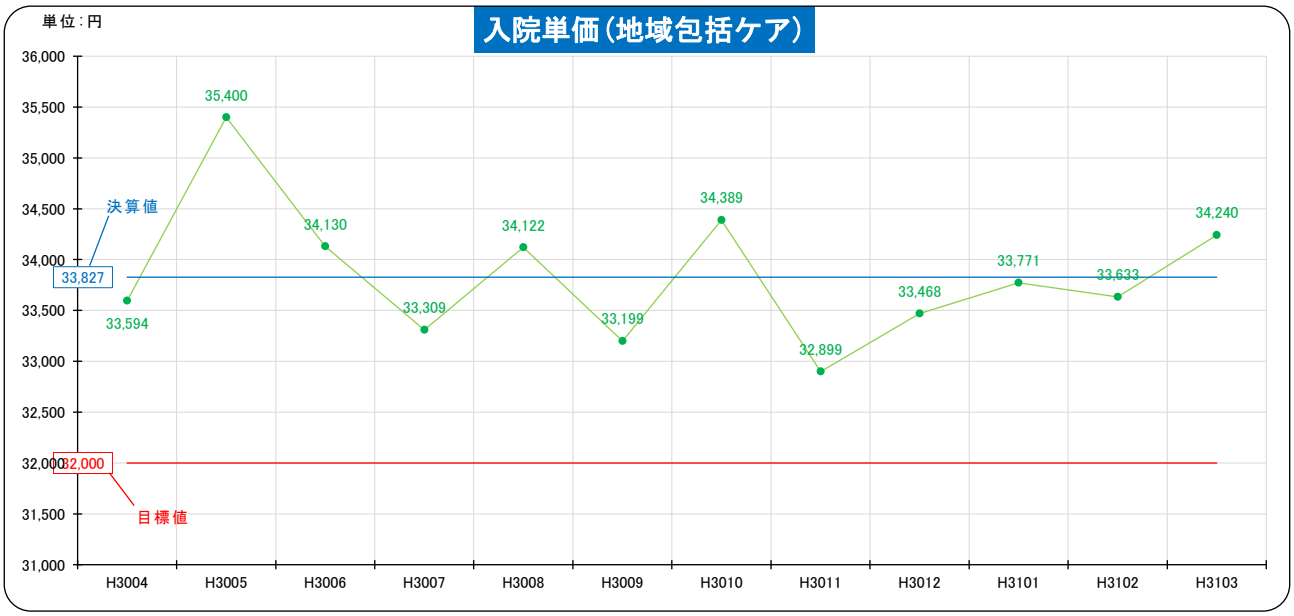
「入院単価」について、当院は引き続き改定後の「地域包括ケア病棟入院料２」を維持していきます。また、「看護職員配置加算（10対１看護体制相当）」、「認知症ケア加算１」及び「看護職員夜間配置加算」の継続取得に努めます。

「１日患者数・病床利用率」及び「入院単価」の推移は以下のとおりです。



※　上段の数値は病床利用率です。

「１日患者数（病床利用率）」について、２月は目標値を超えることができましたが、決算値は「53.3人（前年度比2.7人増）（82.0%）（前年度比4.2%増）」となり、目標値の「59.0人（90.8%）」を5.7人（8.8%）下回りました。



「入院単価」について、年間を通じて「看護職員配置加算（10対１看護体制相当）」を維持し、「看護職員夜間配置加算（西２病棟のみ）」を算定することができました。

この結果、決算値は33,827円（前年度比1,363円増）となり、年間目標値の32,000円を1,827円上回りました。

３．療養病床

評価【４：ほぼ達成】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
稼働病床数 (床)	92	92	－	92	－
１日患者数 (人)	90.0	89.2	▲0.8	90.1	▲0.9
病床利用率 (%)	97.8	97.0	▲0.8	98.0	▲1.0
入院診療日数 (日)	365	365	－	365	－
年間患者数 (人)	32,850	32,566	▲284	32,898	▲332
入院単価 (円)	19,200	21,033	1,833	19,495	1,538
年間収益 (千円)	630,720	684,951	54,231	641,351	43,600

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

療養病床については、２病棟92床の稼働としました。

平成30年度は、診療報酬改定があり療養病床に関連するものは下記のものがありました。

平成30年度診療報酬改定【療養病床関連】

①　医療区分の判定方法の見直し
　→療養病棟入院基本料の算定に用いる「医療区分３」の評価のうち、「医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施している状態」が見直されました

②　在宅復帰機能強化加算の見直し
　→「在宅復帰機能強化加算」の基準値が引き上げられ、評価（加算点数増）されました。

③　一般病棟からの患者受け入れと在宅からの受け入れの評価
　→転院（他院から当院の療養病床）や転棟（当院の急性期病床（ＤＰＣ病床）や地域包括ケア病床から当院の療養病床）での入院よりも、自宅等から直接当院の療養病床への入院が評価（加算増）されました。

④　夜間看護体制の充実を評価
　→日常生活の支援が必要な患者さんが一定割合以上入院する病棟において、夜間の看護職員等の手厚い配置をし、身体的拘束を最小化する取組を行っている場合の評価（夜間看護加算）が新設されました。

⑤　褥瘡対策の推進
　→入院時から継続的に評価することで、「褥瘡評価実施加算」にアウトカム（結果・成果）評価が導入されました。

急性期病床（ＤＰＣ病床）及び地域包括ケア病床と同様に、地域ケア会議出席、「地域医療支援室だより」発行及びベッドコントロール会議開催等を実施しました。

平成30年度診療報酬改定で見直された「在宅復帰機能強化加算」及び新設された「夜間看護加算」について、年間を通じて算定することができました。

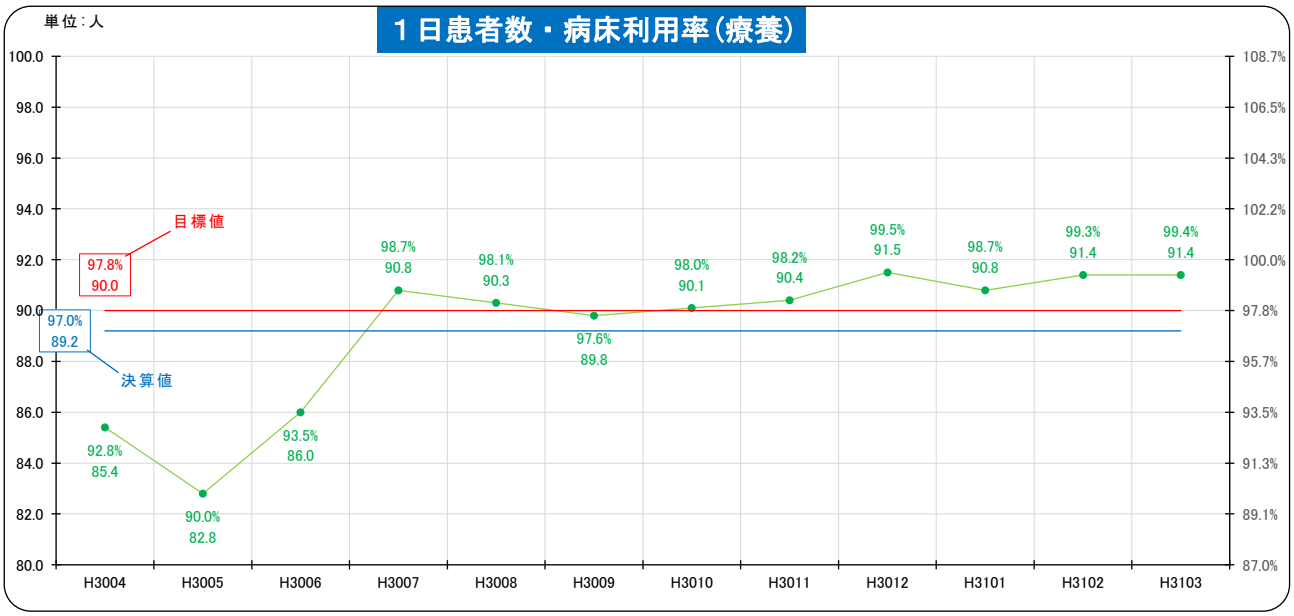
以上の施策により、「１日患者数」は目標値を下回りましたが、「入院単価」は目標値を上回り、「年間収益」の決算値は684,951千円（前年度比43,600千円増）となり、目標値630,720千円を54,231千円上回りました。

令和元年度の「年間収益」目標値を達成するため、「年間患者数」及び「入院単価」について、下記の取り組みを実施します。

まず、「年間患者数」について、平成30年度の取り組みを継続実施し、他の医療機関からの患者さん受け入れの増加を目指します。

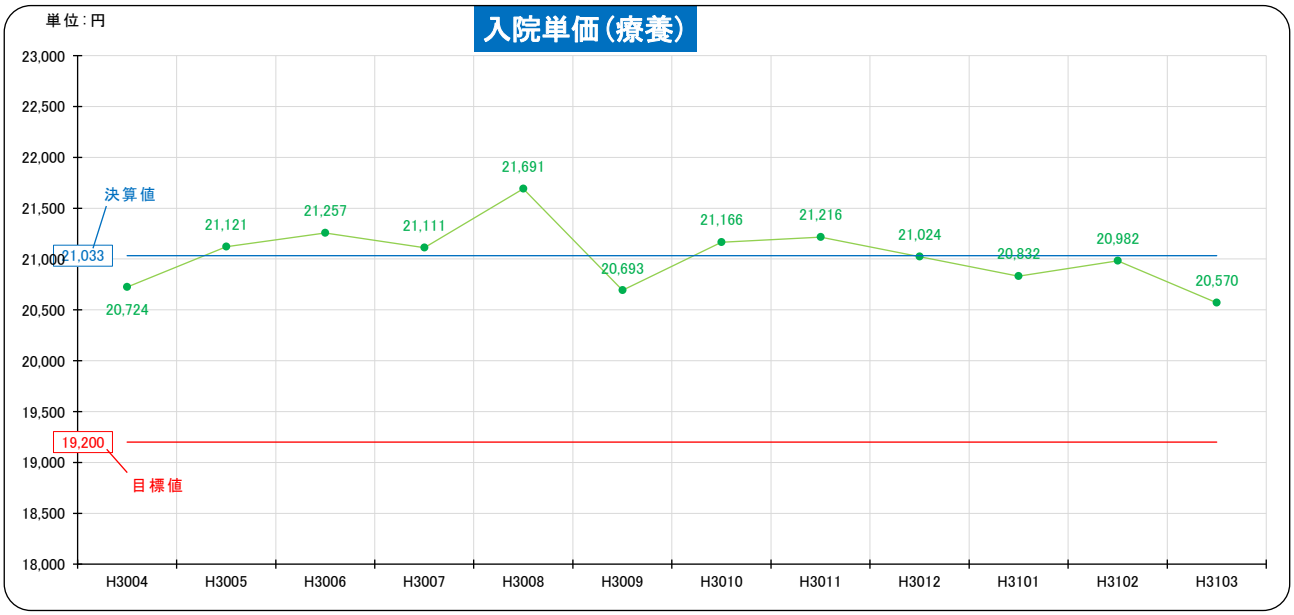
「入院単価」については、「認知症ケア加算１」、「夜間看護加算」及び「在宅復帰機能強化加算」を継続算定します。

「１日患者数・病床利用率」及び「入院単価」の推移は以下のとおりです。



※　上段の数値は病床利用率です。

「１日患者数（病床利用率）」について、７月以降はほぼ目標値を上回る患者数でありましたが、６月までの患者数減の影響から決算値は「89.2人（前年度比0.9人減）（97.0%）（前年度比1.0%減）」となり、目標値の「90.0人（97.8%）」を0.8人（0.1%）下回りました。



「入院単価」について、「在宅復帰機能強化加算」及び「夜間看護加算」を年間を通じて算定することができました。

この結果、決算値は21,033円（前年度比1,538円増）となり、目標値の19,200円を1,833円上回りました。

Ⅲ　外来

評価【３：中程度】

１．患者数・外来単価

評価【３：中程度】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
１日患者数　(人)	380.0	319.8	▲ 60.2	317.4	2.4
外来診療日数　(日)	244	244	－	244	－
年間患者数　(人)	92,720	78,037	▲ 14,683	77,447	590
外来単価　(円)	11,800	11,668	▲ 132	11,255	413
年間収益　(千円)	1,094,096	910,556	▲ 183,540	871,650	38,906

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

平成30年４月に泌尿器科１名及び婦人科１名、平成31年１月に内科（糖尿病・内分泌）１名及び整形外科１名、合計４名の常勤医師を採用できましたが、平成30年11月に内科（循環器）１名が退職しました。

常勤医師採用により、それぞれの診療科の診察枠を増やすことができました。しかしながら、月曜日から金曜日まで毎日外来診療を行っていない診療科（神経内科、呼吸器内科、皮膚科及び耳鼻いんこう科）の診察枠を増やすことはできませんでした。

「年間収益」の決算値は910,556千円（前年度比38,906千円増）となり、目標値の1,094,096千円を183,540千円下回りました。

令和元年度の「年間収益」目標値を達成するため、「年間患者数」について、下記の取り組みを実施します。

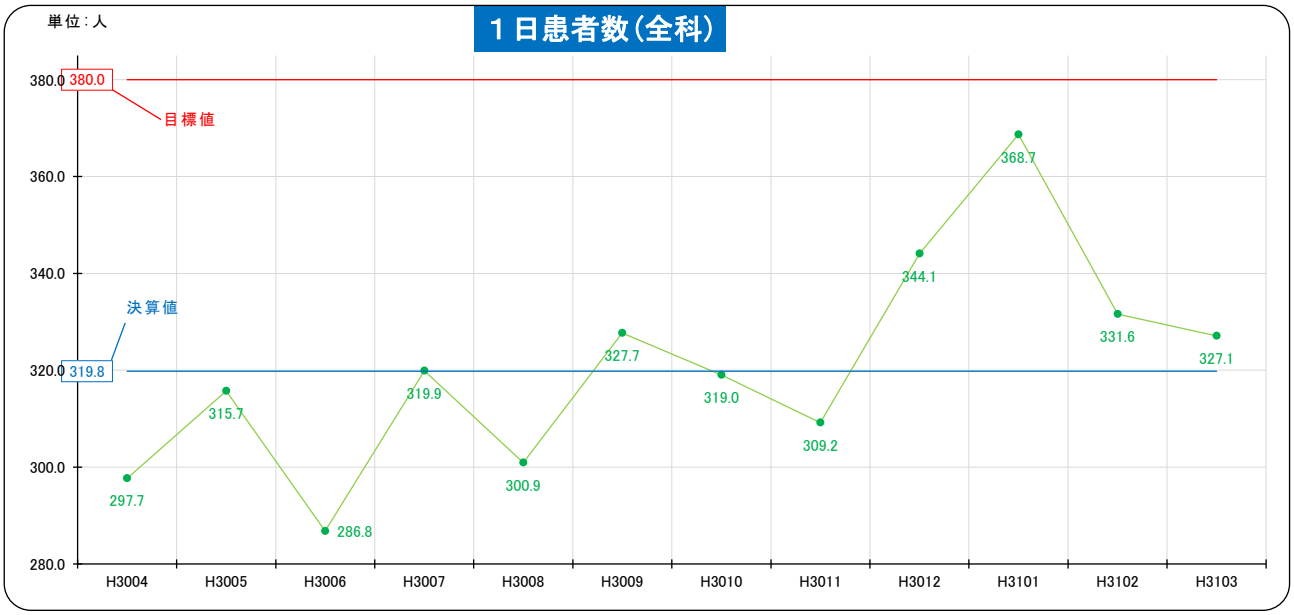
「蒲原病院だより」を年２回発行から年４回発行へ増やします。

また、今年度も市民公開講座を開催し、地域住民が参加できるよう広報します。

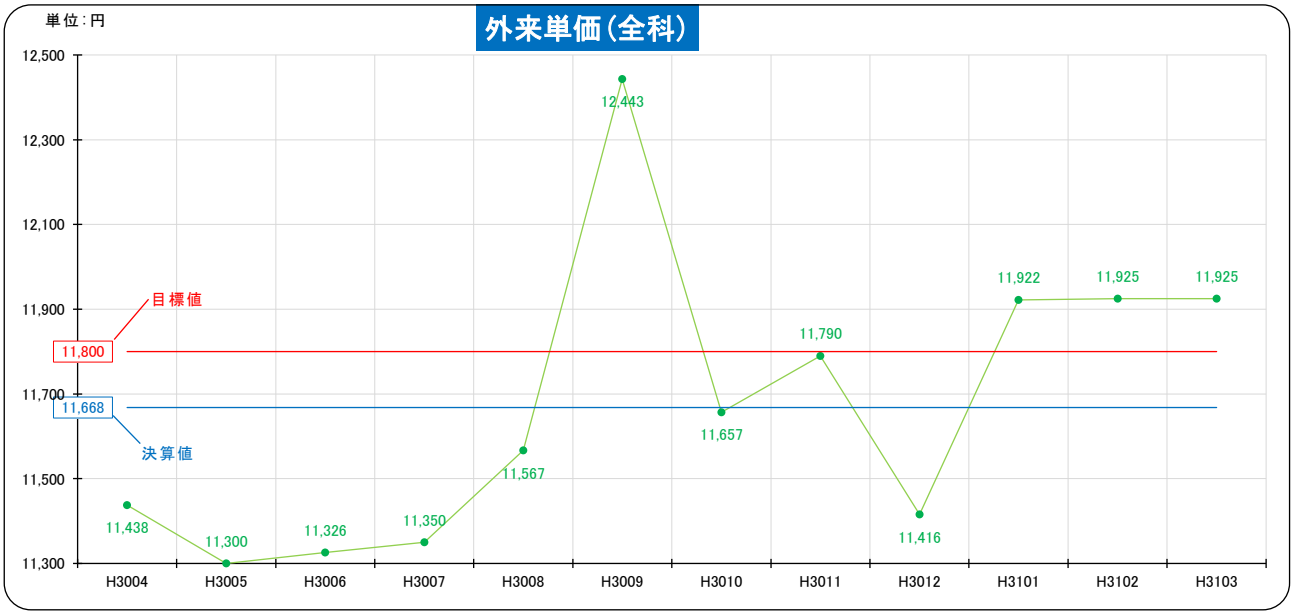
「蒲原病院健康フェスタ」を由比地区で開催し、その中で地域住民に対し、肝疾患についての正しい知識と肝炎検査受診勧奨の普及啓発に努めます。

他の医療機関からの紹介患者数の増を図るため、当院の医療情報を積極的に発信する必要があります。医療機関に向けて各科外来の予定や予約方法等を記載した「外来受診に関するお知らせ」及び「外来診療担当表」を毎月送付し、「地域医療支援室だより」を年４回以上発行することにより、当院の医療情報を周知します。

「１日患者数」及び「外来単価」の推移は以下のとおりです。



「１日患者数」について、年間を通じて目標値を上回ることができず、決算値は319.8人（前年度比2.4増）となり、目標値の380.0人を60.2人下回りました。

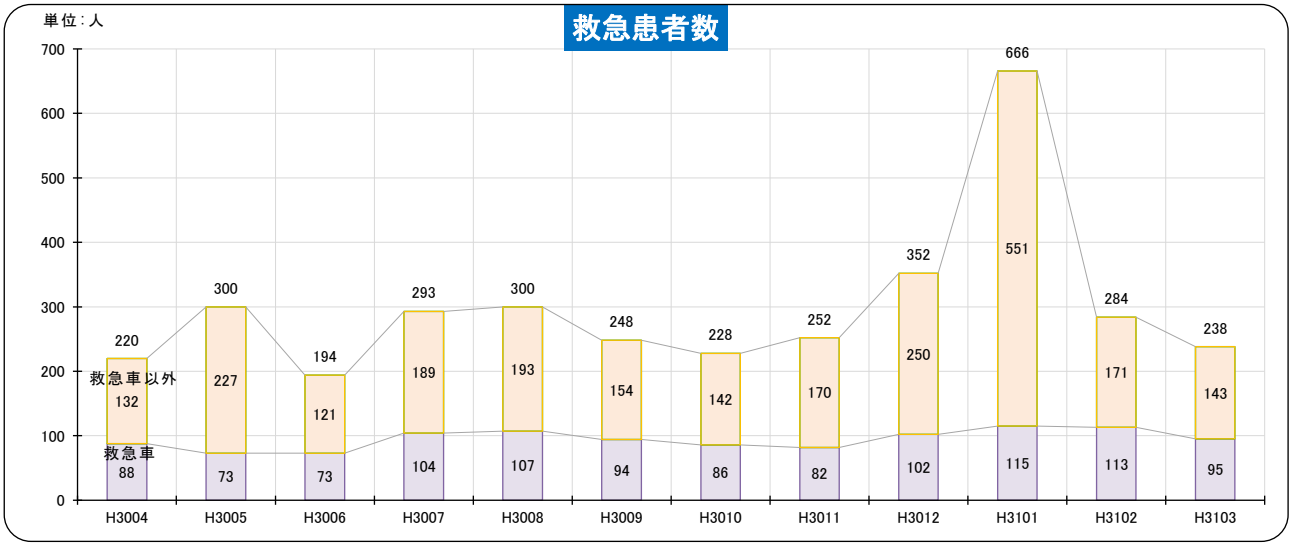


「外来単価」について、眼科の白内障手術件数の増加等により目標値を上回る月もありました。この結果、決算値は11,668円（前年度比413円増）となり、目標値の11,800円を132円下回りました。

２．救急医療

評価【３：中程度】

平成30年度は、目標値の3,700人に対し、決算値で3,575人（救急車1,132人、救急車以外2,443人）の救急患者を受け入れることができました。



- 富士医療圏

  富士市のウェブサイト及び広報紙に当院の救急患者受入情報を掲載し、積極的な救急患者受け入れを図ったほか、４月29日、４月30日、５月３日から５月６日までの６日間及び12月29日から１月３日までの６日間の合計12日間は、長期休暇中の一次救急医療に協力することができました。

  一方、整形外科常勤医師の招聘ができましたが、外科及び脳神経外科の常勤医師の招聘ができず、富士医療圏第二次救急医療輪番制（外科）へ再加入することができませんでした。引き続き外科系常勤医師の招聘に努め、早期の再加入を目指していきます。

- 蒲原・由比地区

  一次救急医療について、夜間及び土曜午後は、年間を通じ当院が担いました。また、休日（日曜、祝日及び12月29日から１月３日まで）は、72回中42回当院が担いました。

Ⅳ　健康診断センター　　評価【３：中程度】

１．公衆衛生活動収益（集団健診）　　評価【３：中程度】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
年間受診者数　(人)	37,550	35,878	▲ 1,672	36,331	▲ 453
年間収益　(千円)	366,623	351,358	▲ 15,265	341,268	10,090

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。また、今回から平成29年度以降の集計方法を変更したため、目標値との比較ができない場合があります。

平成30年度は、レントゲン検診車を１台更新したことにより、下記の集団検診を安定して実施することができました。

⑴　市民健診　　評価【３：中程度】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
年間受診者数　(人)	4,550	7,157	2,607	7,650	▲ 493
健診単価　(円)	11,600	6,058	▲ 5,542	6,099	▲ 41
年間収益　(千円)	52,780	43,359	▲ 9,421	46,657	▲ 3,298

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。また、今回から平成29年度以降の集計方法を変更したため、目標値との比較ができない場合があります。

平成30年度は、富士市民、静岡市民及び富士宮市民の特定健康診査及び各種がん健診の実施会場を各市の公的施設とし、実施日を休日にするなどして受診しやすい環境を整えましたが、「年間受診者数」は平成29年度決算値を下回りました。

令和元年度は、受診者のニーズに合った健診サービスを提供していきます。

⑵　企業健診（生活習慣病健診）　　評価【３：中程度】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
年間受診者数　(人)	23,850	15,797	▲ 8,053	14,898	899
健診単価　(円)	8,820	11,004	2,184	10,820	184
年間収益　(千円)	210,357	173,833	▲ 36,524	161,198	12,635

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。また、今回から平成29年度以降の集計方法を変更したため、目標値との比較ができない場合があります。

⑶　企業健診（一般健診・二次検査等）他　　評価【３：中程度】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
年間受診者数　(人)	9,150	12,924	3,774	13,783	▲ 859
健診単価　(円)	11,310	10,381	▲ 929	9,680	701
年間収益　(千円)	103,486	134,166	30,680	133,413	753

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。また、今回から平成29年度以降の集計方法を変更したため、目標値との比較ができない場合があります。

企業健診（上記の「⑵　企業健診（生活習慣病健診）」及び「⑶　企業健診（一般健診・二次検査等）他」）について、平成30年度は、受診者数はほぼ前年並みでした。若年層健康診断実施時において血液検査の実施区分が明確になったことやレントゲン検診車の更新によりレントゲン撮影の単価を上げることができたこと等により、年間収益は平成29年度を上回りました。

令和元年度は、若年層健康診断への血液検査追加の必要性をアナウンスし、検査項目の増加につなげていきます。また、更にレントゲン検診車を１台更新し、計画した健康診断を確実に実施していきます。

２．医療相談収益（人間ドック）　　評価【３：中程度】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
年間受診者数　(人)	7,158	7,688	530	6,917	771
年間収益　(千円)	224,545	216,017	▲8,528	200,371	15,646

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。また、平成30年度から集計方法を変更したため、目標値との比較ができない場合があります。

下記の人間ドックを実施しました。

⑴　１泊ドック　　評価【３：中程度】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
年間受診者数※　(人)	228	98	▲130	204	▲106
健診単価　(円)	76,960	79,755	2,795	80,453	▲698
年間収益　(千円)	17,546	7,816	▲9,730	8,206	▲390

※　年間受診者数は、１泊を２人として計上しています。また、 決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があり、平成30年度から集計方法を変更したため、目標値との比較ができない場合があります。

平成30年度は、「１泊ドック」について、オプション検査追加等により「健診単価」は目標値を上回りましたが、健康保険組合等の費用補助対象から「１泊ドック」が外れたことで受診者が減少しました。

令和元年度は、Ｗｅｂを利用した予約サイトへ登録し、いつでも予約ができるよう受診者の利便性の向上を図ります。併せて「１泊ドック」のメリット、さらに多種多様なオプション検査をＰＲし、受診者の増を図ります。

⑵　日帰りドック他　　評価【４：ほぼ達成】

	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
年間受診者数　(人)	6,930	7,590	660	6,713	877
健診単価　(円)	29,870	27,431	▲2,439	28,625	▲1,194
年間収益　(千円)	206,999	208,201	1,202	192,165	16,036

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。また、平成30年度から集計方法を変更したため、目標値との比較ができない場合があります。

平成30年度は、日帰りドック受診者及び特定保健指導受診者が増加したため、「年間受診者数」は目標値を大きく上回りました。新規オプションとして設定したアレルゲン検査や胃ピロリ菌呼気検査が順調に増加しました。また、ドック受診者へヘルシーな食生活の提供を目的とし、管理栄養士監修による「蒲原御膳※」を平成30年５月から提供を開始しました。受診者の半数以上の方に食していただき好評でした。

令和元年度には、新たなオプション検査を設け、好評であった「蒲原御膳」を更に進化させた食事の提供をしていきます。

※「蒲原御膳」とは
１食あたり600キロカロリーとし、塩分を控えたヘルシーな昼食です。

３．収支

評価【３：中程度】

収支の状況　　（単位：千円）

		目標値 A	決算値※ B	目標値との差 C（B－A）	H29決算値 D	前年度比 E（B－D）
健康診断センター収益		592,189	568,659	▲23,530	544,881	23,778
	公衆衛生活動収益（集団健診）	366,623	351,358	▲15,265	341,268	10,090
	医療相談収益（人間ドック）	224,545	216,017	▲8,528	200,371	15,646
	他会計負担金	964	964	0	2,200	▲1,236
	長期前受金戻入他	57	321	264	1,042	▲721
健康診断センター費用		557,645	559,987	2,342	556,758	3,229
収　支		34,544	8,672	▲25,872	▲11,877	20,549

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。また、平成30年度から集計方法を変更したため、目標値との比較ができない場合があります。

「健康診断センター収益」の決算値は568,659千円となり、目標値の592,189千円を23,530千円下回りました。

「健康診断センター費用」の決算値は559,987千円となり、目標値557,645千円を2,342千円上回りました。

この結果、「収支」は決算値が8,672千円の利益となりましたが、目標値34,544千円の利益を25,872千円下回りました。

Ⅴ　訪問看護ステーション

評価【３：中程度】

１．訪問看護

評価【３：中程度】

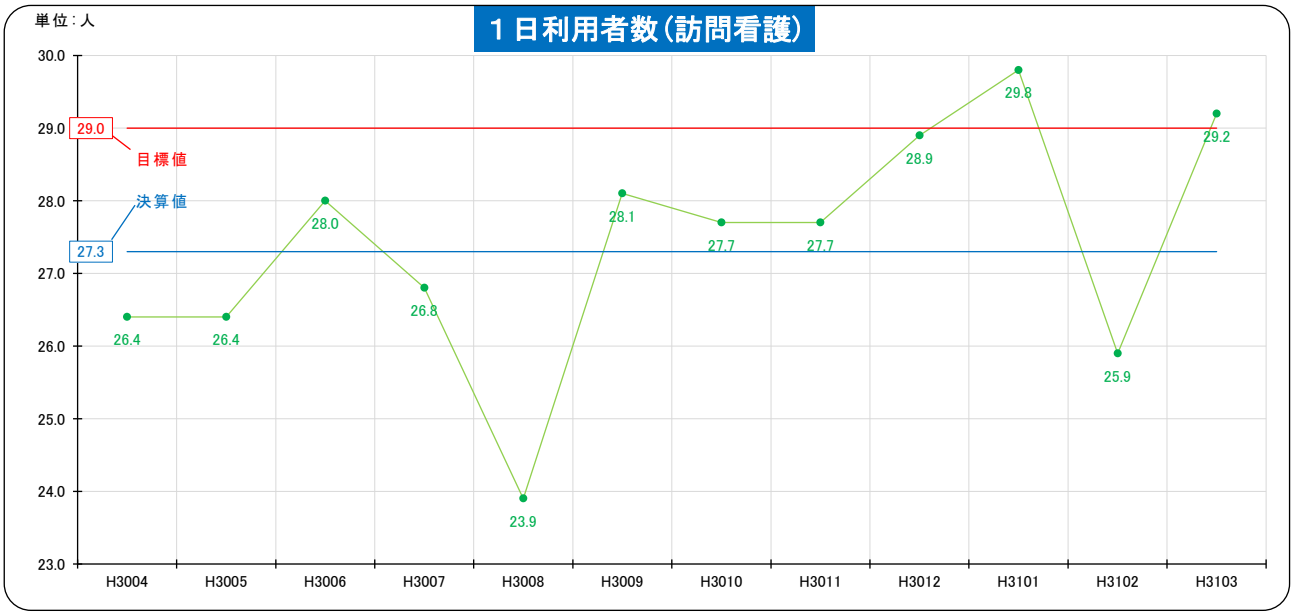
	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
１日利用者数 (人)	29.0	27.3	▲1.7	26.0	1.3
訪問看護稼働日数 (日)	244	244	－	244	－
年間利用者数 (人)	7,076	6,672	▲404	6,344	328
訪問看護単価 (円)	10,121	10,547	426	10,010	537
年間収益 (千円)	71,616	70,373	▲1,243	63,503	6,870

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

平成30年度は、実利用者が14人増加（下表「平成30年度訪問看護利用開始・終了者数」参照）しましたが、「１日利用者数」は目標値を下回りました。「訪問看護単価」は目標値を上回りましたが、「年間収益」の決算値は70,373千円（前年度比6,870千円増）となり、目標値の71,616千円を1,243千円下回りました。

令和元年度は、平成30年度診療報酬・介護報酬改定により改定された看護体制強化加算Ⅰ及び退院時共同指導加算等を継続的に算定するとともに、ケアマネジャー、主治医及び他の医療機関との良好な関係を継続し、訪問看護利用者の増加に努めます。

「１日利用者数」及び「訪問看護単価」の推移は以下のとおりです。

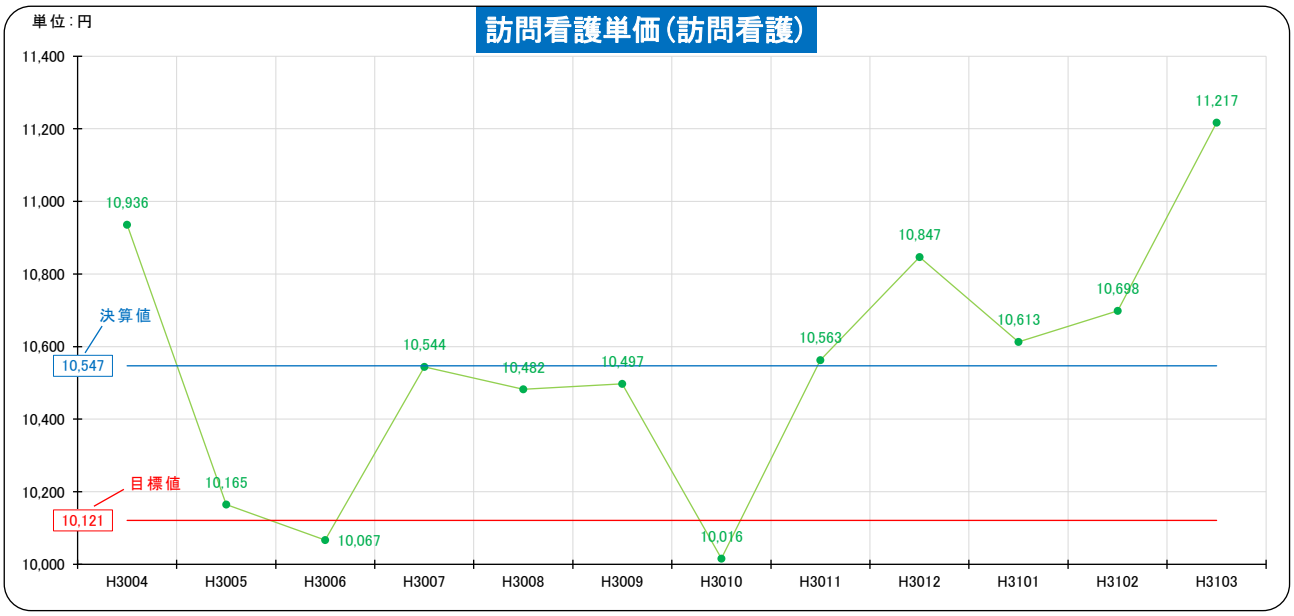


「１日利用者数」について、平成30年度中の利用開始者は88人、利用終了者は74人、実利用者は14人の増（下表参照）となりました。利用者が入院したこと等により８月は利用者数が大きく減少しました。一方、１月及び３月は頻回な訪問を要する利用者が増加したことからに目標値を上回りました。

この結果、決算値は27.3人（前年度比1.3人増）となり、目標値の29.0人を1.7人下回りました。

平成30年度訪問看護利用開始・終了者数　（単位：人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
利用開始者	6	5	4	6	4	8	10	8	13	6	6	12	88
利用終了者	4	8	2	2	4	4	11	6	8	9	7	9	74
差	2	▲3	2	4	0	4	▲1	2	5	▲3	▲1	3	14



「訪問看護単価」について、前年度に引き続き「医療連携体制加算」を算定するための業務を近隣のグループホームから１年間委託されました。また、看護体制強化加算Ⅰ、ターミナルケア加算及び退院時共同指導加算等の算定に努め、６月及び10月以外の月では目標値を上回ることができました。

この結果、決算値は10,547円（前年度比537円増）となり、目標値の10,121円を426円上回りました。

２．訪問リハビリ

評価【３：中程度】

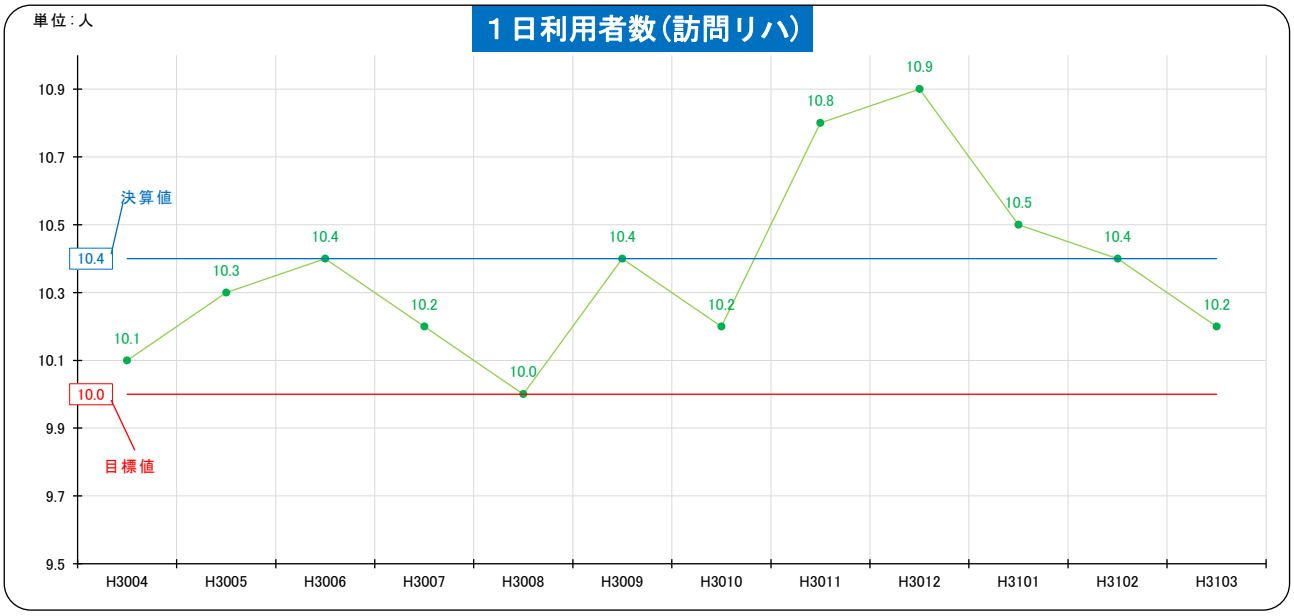
	目標値 A	H30決算値※ B	目標値との差 C(B-A)	H29決算値 D	前年度比 E(B-D)
１日利用者数 (人)	10.0	10.4	0.4	10.3	0.1
訪問リハ稼働日数 (日)	244	244	－	244	－
年間利用者数 (人)	2,440	2,528	88	2,521	7
訪問リハ単価 (円)	6,800	6,208	▲592	6,482	▲274
年間収益 (千円)	16,592	15,694	▲898	16,342	▲648

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

「１日利用者数」が目標値を上回りましたが、「訪問リハ単価」が目標値を下回ったことから、「年間収益」の決算値は15,694千円（前年度比648千円減）となり、目標値の16,592千円を898千円下回りました。

令和元年度は、ケアマネジャー、主治医及び他の医療機関との良好な関係を継続し、訪問リハビリ利用者の増加に努めます。

「１日利用者数」及び「訪問リハ単価」の推移は以下のとおりです。

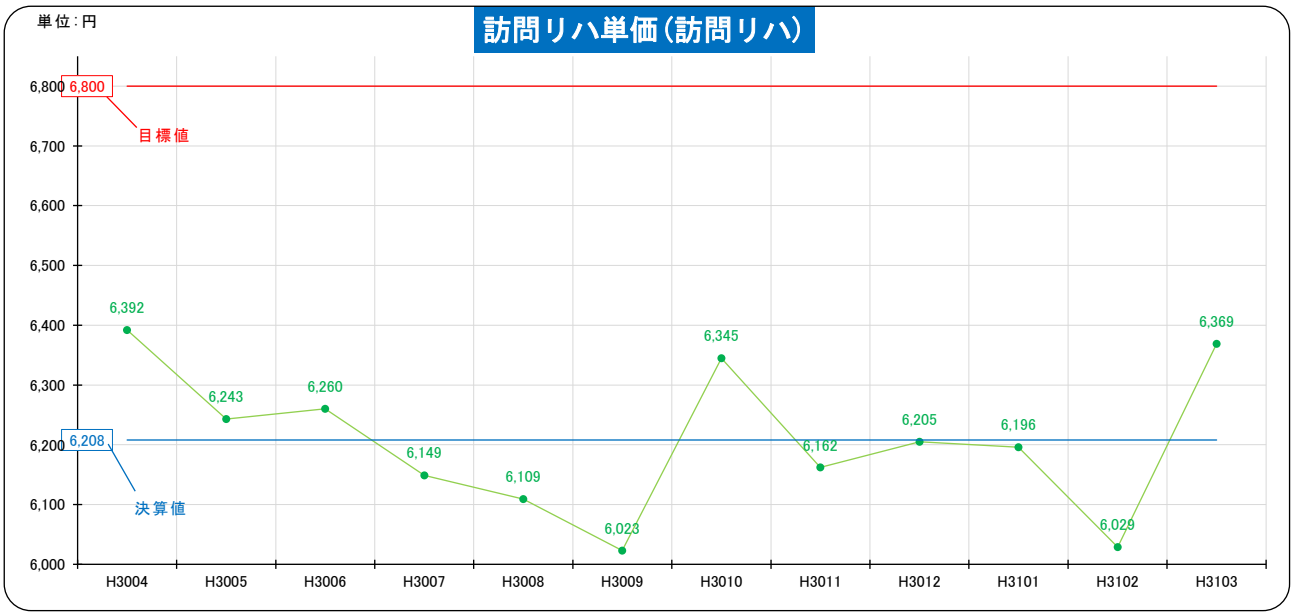


「１日利用者数」について、平成30年度中の利用開始者は６人、利用終了者は３人、実利用者は３人の増（下表参照）となり、全期間を通じて目標値を上回りました。

この結果、決算値は10.4人（前年度比0.1人増）となり、目標値の10.0人を0.4人上回りました。

平成30年度訪問リハビリ利用開始・終了者数　（単位：人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
利用開始者	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	6
利用終了者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3
差	1	0	0	0	3	0	0	0	▲1	0	1	▲1	3



「訪問リハ単価」について、平成30年度介護報酬改定で訪問リハビリの１訪問当たり単位数が引き下げられたこと等により、１年間を通じて目標値を下回りました。

この結果、決算値は6,208円（前年度比274円減）となり、目標値の6,800円を592円下回りました。

３．収支

評価【２：やや不十分】

収支の状況　　（単位：千円）

	目標値 A	決算値※ B	目標値との差 C(B－A)	H29決算値 D	前年度比 E(B－D)
訪問看護ステーション収益	88,209	86,067	▲ 2,142	79,844	6,223
訪問看護	71,617	70,373	▲ 1,243	63,503	6,870
訪問リハビリ	16,592	15,694	▲ 898	16,342	▲ 648
訪問看護ステーション費用	87,468	86,231	▲ 1,237	80,342	5,889
収　支	741	▲ 164	▲ 905	▲ 498	334

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

「訪問看護ステーション収益」は、「訪問看護」収益及び「訪問リハビリ」収益とも、決算値は目標値を下回りました。

一方、「訪問看護ステーション費用」は、減価償却費が目標値を上回りましたが、これ以外の項目は目標値を下回ったことから、決算値は86,231千円となり、目標値の87,468千円を1,237千円下回りました。

この結果、「訪問看護ステーション収支」は、決算値が164千円の損失となり、目標値の741千円の利益を905千円下回りました。

Ⅵ　収支

評価【１：不十分】

１．収益的収支

評価【１：不十分】

⑴　収益的収入

評価【１：不十分】

収益的収入の状況　　（単位：千円）

款	項	目	節	目標値	決算値※	差
病院事業収益				5,244,269	4,799,994	▲ 444,275
	医業収益			4,049,995	3,650,240	▲ 399,755
		入院収益		2,589,310	2,420,408	▲ 168,902
			急性期（ＤＰＣ）病床	1,269,470	1,077,728	▲ 191,742
			地域包括ケア病床	689,120	657,729	▲ 31,391
			療養病床	630,720	684,951	54,231
		外来収益		1,094,096	910,556	▲ 183,540
		他会計負担金		252,000	243,983	▲ 8,017
		その他医業収益		114,589	75,292	▲ 39,297
	医業外収益			513,876	495,029	▲ 18,847
		受取利息及び配当金		510	41	▲ 469
		他会計負担金		405,406	405,199	▲ 207
		国庫(県)補助金		401	422	21
		長期前受金戻入		30,822	30,822	0
		その他医業外収益		76,737	58,545	▲ 18,192
	附帯事業収益			680,398	654,726	▲ 25,672
		健康診断センター収益		592,189	568,659	▲ 23,530
			公衆衛生活動収益	366,623	351,358	▲ 15,265
			医療相談収益	224,545	216,017	▲ 8,528
			他会計負担金	964	964	0
			長期前受金戻入	56	317	261
			その他収益	1	4	3
		訪問看護ステーション収益		88,209	86,067	▲ 2,142
			訪問看護	71,616	70,373	▲ 1,243
			訪問リハビリ	16,592	15,694	▲ 898
			その他収益	1	0	▲ 1

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

⑵　収益的支出

評価【２：やや不十分】

収益的支出の状況　　（単位：千円）

款	項	目	節	目標値	決算値※	差
病院事業費用				5,320,105	5,167,948	▲ 152,157
	医業費用			4,531,138	4,362,543	▲ 168,595
		給与費		2,799,225	2,893,589	94,364
		材料費		518,333	442,922	▲ 75,411
			薬品費	291,313	210,767	▲ 80,546
			診療材料費	223,382	229,700	6,318
			医療消耗備品費	3,638	2,455	▲ 1,183
		経費		738,213	598,909	▲ 139,304
			委託費	388,573	330,099	▲ 58,474
			光熱水費・燃料費	136,501	92,739	▲ 43,762
			その他経費	213,139	176,071	▲ 37,068
		減価償却費		438,836	406,675	▲ 32,161
		資産減耗費		19,225	9,471	▲ 9,754
		研究研修費		17,306	10,977	▲ 6,329
	医業外費用			139,854	159,187	19,333
		支払利息		52,344	51,140	▲ 1,204
			企業債利息	52,265	51,064	▲ 1,201
			一時借入金利息・支払利息	79	76	▲ 3

		保育所運営費			21,980	21,310	▲670
		その他医業外費用			65,530	86,736	21,206
	附帯事業費用				645,113	646,218	1,105
		健康診断センター費用			557,645	559,987	2,342
			給与費		301,333	300,112	▲1,221
			材料費		49,944	46,507	▲3,437
			経費		147,915	152,359	4,444
				委託費	86,896	113,093	26,197
				光熱水費・燃料費	9,451	7,264	▲2,187
				その他経費	51,568	32,002	▲19,566
			減価償却費		27,824	28,484	660
			資産減耗費・研究研修費		1,772	1,075	▲697
			企業債利息		1,447	1,446	▲1
			雑損失他		27,410	30,004	2,594
		訪問看護ステーション費用			87,468	86,231	▲1,237
			給与費		81,485	81,374	▲111
			材料費		336	141	▲195
			経費		4,154	3,172	▲982
				光熱水費・燃料費	1,492	869	▲623
				その他経費	2,662	2,302	▲360
			減価償却費		1,261	1,429	168
			その他費用		232	115	▲117
	予備費				4,000	0	▲4,000

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

⑶　収益的収支（病院事業収支）　　評価【１：不十分】

収益的収支の状況　　（単位：千円）

	目標値	決算値※	差
病院事業収益	5,244,269	4,799,994	▲444,275
病院事業費用	5,320,105	5,167,948	▲152,157
収　支	▲75,836	▲367,954	▲292,118

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

「病院事業収益」について、「入院収益」のうち「療養病床」では目標値を上回りましたが、「急性期病床（ＤＰＣ病床）」及び「地域包括ケア病床」では目標値を下回り、「外来収益」並びに「その他医業収益」も目標値を下回りました。また、附帯事業では、「健康診断センター収益」、「訪問看護ステーション収益」とも目標値を下回りました。以上のことから「病院事業収益」全体では決算値が4,799,994千円となり、目標値の5,244,269千円を444,275千円下回りました。

一方、「病院事業費用」について、職員の増員により「給与費」は目標値を上回りましたが、患者数の減及び「薬品費」等の減により「材料費」が目標値を75,411千円下回り、「経費」についても目標値を139,304千円下回りました。また、附帯事業では、「健康診断センター費用」が目標値を2,342千円上回りました。以上のことから「病院事業費用」全体では決算値が5,167,948千円となり、目標値の5,320,105千円を152,157千円下回りました。

この結果、実質単年度純損失は367,954千円となり、目標値の75,836千円から292,118千円増加しました。

２．資本的収支

⑴　資本的収入

資本的収入の状況　　（単位：千円）

款	項	目	節	目標値	決算値※	差
資本的収入				90,005	90,690	685
	企業債			90,000	90,000	0
		企業債		90,000	90,000	0
	補助金			3	0	▲3
		国県補助金		3	0	▲3
			国庫補助金	1	0	▲1
			県補助金	1	0	▲1
			構成市補助金	1	0	▲1
	寄付金			1	0	▲1
		寄付金		1	0	▲1
	貸付金返還金			1	690	689
		貸付金返還金		1	690	689
			看護師等修学資金貸付金返還金	1	690	689

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

⑵　資本的支出

資本的支出の状況　　（単位：千円）

款	項	目	節	目標値	決算値※	差
資本的支出				685,655	583,504	▲102,151
	建設改良費			358,495	262,480	▲96,015
		建設改良費		175,200	101,569	▲73,631
			工事請負費	162,000	101,569	▲60,431
			設計管理料	13,200	0	▲13,200
		固定資産購入費		180,000	157,742	▲22,258
			器械備品購入費	90,000	97,967	7,967
			車両購入費	90,000	59,775	▲30,225
		リース債務支払		3,295	3,170	▲125
	貸付金			21,360	15,480	▲5,880
		貸付金		21,360	15,480	▲5,880
			看護師等修学資金貸付金	7,320	2,880	▲4,440
			薬剤師修学資金貸付金	2,040	600	▲1,440
			医学生修学資金貸付金	12,000	12,000	0
	企業債償還金			305,800	305,544	▲256
		企業債償還金		305,800	305,544	▲256

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

⑶　資本的収支

資本的収支の状況　　（単位：千円）

	目標値	決算値※	差
資本的収入	90,005	90,690	685
資本的支出	685,655	564,303	▲121,352
収　支	▲595,650	▲473,613	122,037

※　決算値について、端数処理の関係で合計と合わない場合があります。

Ⅶ　数値目標

１．医療機能等指標の目標

⑴　医療機能・医療品質に係るもの

H30年度		目標値	決算値	差
救急患者数（入院・外来）	(人)	3,700	3,575	▲ 125

H30年度		目標値	決算値	差
紹介率	(%)	31.0	29.2	▲ 1.8

H30年度		目標値	決算値	差
訪問看護件数	(人)	7,076	6,672	▲ 404
訪問リハビリ件数	(人)	2,440	2,528	88
計	(人)	9,516	9,200	▲ 316

⑵　その他

H30年度		目標値	決算値	差
医療相談件数	(人)	2,400	2,040	▲ 360

平成30年１月の電子カルテ導入で、平成29年12月までと平成30年１月以降で医療相談内容の分類を変更したことにより、平成30年度以降の目標値を修正しました。(修正前の目標値　H30年度：2,200件、R元年度：2,350件、Ｒ２年度：2,500件)

２．経営指標の目標

⑴　収支改善に係るもの

H30年度		目標値	決算値	差
経常収支比率	(%)	98.6	92.9	▲ 5.7

H30年度		目標値	決算値	差
医業収支比率	(%)	89.4	83.7	▲ 5.7

⑵　経費削減に係るもの

H30年度		目標値	決算値	差
対医業収益比率				
材料費	(%)	12.8	12.1	▲ 0.7
薬品費	(%)	7.2	5.8	▲ 1.4
委託費	(%)	9.6	9.0	▲ 0.6
給与費	(%)	69.1	79.3	10.2
減価償却費	(%)	10.8	11.1	0.3

⑶　収入確保に係るもの

H30年度		目標値	決算値	差
病床利用率	(%)	94.9	87.4	▲ 7.5
１日入院患者数	(人)	223.0	205.3	▲ 17.7
入院単価	(円)	31,812	32,303	491

H30年度		目標値	決算値	差
１日外来患者数	(人)	380.0	319.8	▲ 60.2
外来単価	(円)	11,800	11,668	▲ 132

（注)「急性期病床における後発医薬品指数」については、平成30年度診療報酬改定で下記の変更があり、急性期病床だけでなく院内全体で後発医薬品使用を促進する必要があることから、目

標値から削除します。

- ＤＰＣ病床における後発医薬品使用を評価する指標である後発医薬品係数が廃止されたこと。
- 「後発医薬品使用体制加算」の対象に、ＤＰＣ病床入院患者が追加されたこと。

H30年度末	目標値	決算値	差
企業債残高 (円)	1,788,852,492	1,789,108,202	255,710

共立蒲原総合病院　第二次中期経営計画

平成30年度進捗状況報告

共立蒲原総合病院　医事経営課
〒421-3306　富士市中之郷2500-1
TEL：0545-81-2211　FAX：0545-81-2208
e-mail：keiei@kanbarahp.com
http://www.kanbarahp.com/